

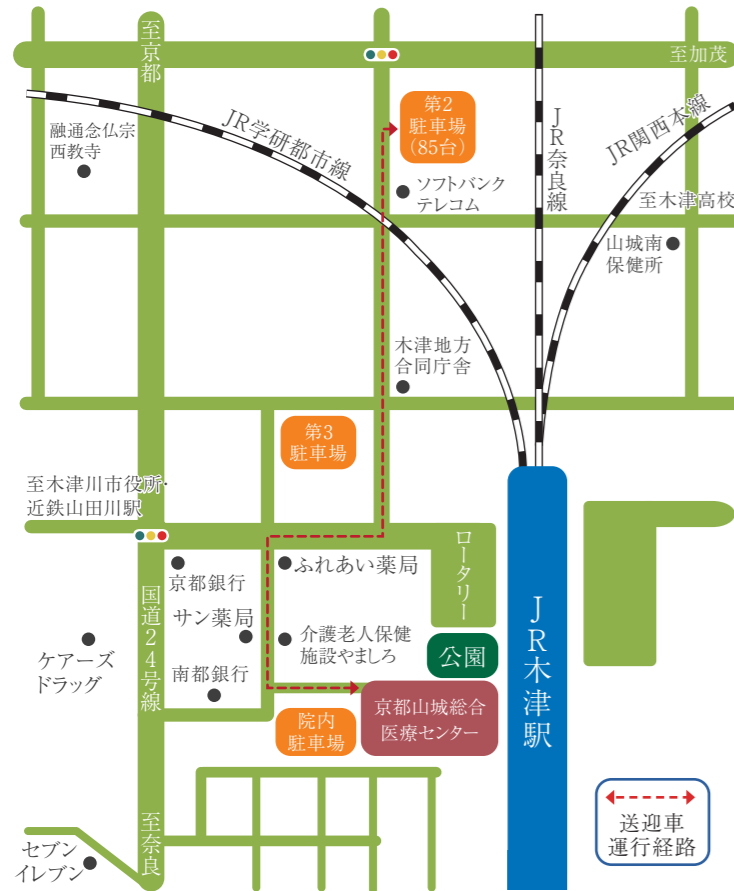
令和3年度

診療科 ご案内

京都山城
総合医療センター



お車でお越しの方へ



1 京都方面からの来院



2 大阪方面からの来院



■ 駐車料金について

外来診察の方

正面、第2、第3: 入庫から8時間無料

ご家族・お見舞いの方

正面: 入庫から30分無料 以降60分200円 最大500円

第2: 入庫から4時間無料 以降60分200円 最大300円

第3: 入庫から60分無料 以降60分200円 最大500円

■ 院内駐車場の利用制限について

平日正午までは、妊婦、身体障害者、高齢者等の方のご利用を優先させていただきます。

■ 送迎車について

第二駐車場から病院まで無料で送迎車を運行しております。(運行時間は午前7時30分から午後3時まで)

公共交通機関でお越しの方へ



1 JR木津駅西口から 徒歩1分

JR

- ・ JR京都駅から JR奈良線 約38分(みやこ路快速)
- ・ JR大阪駅から 大阪環状線~大和路線 約59分(大和路快速)
- ・ JR天王寺駅から JR大和路線 約42分(大和路快速)
- ・ JR京橋駅から JR学研都市線 約60分(区間快速)
- ・ JR奈良駅から JR大和路線 約7分

近鉄

- ・ 近鉄京都駅から 近鉄京都線 約29分(急行)
- ・ 新祝園駅のりかえJR学研都市線 約6分
- ・ 大阪難波駅から 近鉄奈良線 約30分(快速急行)
- ・ 大和西大寺駅のりかえ近鉄京都線 約10分(急行)
- ・ 新祝園駅のりかえJR学研都市線 約6分
- ・ 近鉄奈良駅から 近鉄奈良線~京都線 約17分(急行)
- ・ 新祝園駅のりかえJR学研都市線 約6分

2 近鉄山田川駅から

奈良交通バス約10分 JR木津駅前下車 徒歩1分

京都山城総合医療センター

〒619-0214 京都府木津川市木津駅前一丁目27番地
TEL 0774-72-0235(代表) FAX 0774-72-2155
<http://www.yamashiro-hp.jp/>

目次(診療科)

院内マップ・コロナ対策について 01
 外来受診について 02
 地域医療支援病院について 03

1階フロア	⑨ 受付	消化器内科 04	循環器内科 05	腎臓内科 06	糖尿病・代謝内科 07	リウマチ科 08	総合内科 09	小児科 10	泌尿器科 11	
	⑧ 受付	脳神経内科 12	呼吸器外科 13	消化器外科 14	乳腺・内分泌外科 15	小児外科 16	整形外科 17	脳神経外科 18		
	⑩ 受付	放射線科 19								
	2階フロア	⑬ 受付	産婦人科 20							
		⑭ 受付	眼科 21	皮膚科 22	耳鼻咽喉科 23					
		⑰ 受付	リハビリテーション科 23							
			麻酔科 24							
			地域包括ケア病棟 25							

各受付のご紹介

1階フロア

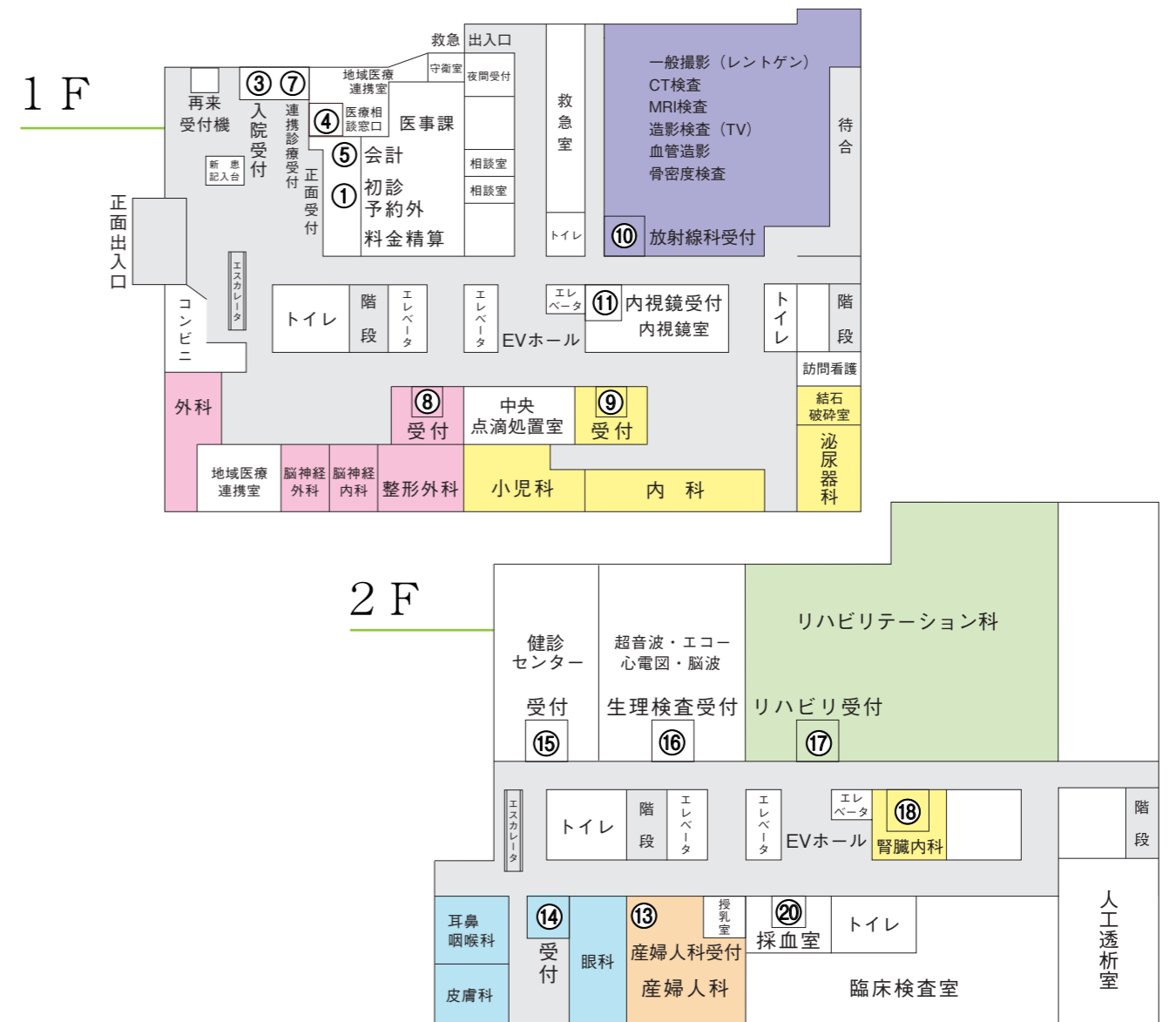
- ①番受付:初診受付/予約外
- ③番受付:入院受付
- ④番受付:医療相談窓口
- ⑤番会計:診療費のお支払い窓口
- ⑦番受付:連携診療受付
- ⑧番受付:脳神経内科、外科、呼吸器外科、消化器外科、乳腺・内分泌外科、小児外科、整形外科、脳神経外科

- ⑨番受付:消化器内科、循環器内科、腎臓内科、糖尿病・代謝内科、リウマチ科、総合内科、小児科、泌尿器科
- ⑩番受付:放射線科受付
- ⑪番受付:内視鏡受付

2階フロア

- ⑬番受付:産婦人科
- ⑭番受付:眼科、皮膚科、耳鼻咽喉科
- ⑮番受付:健診センター
- ⑯番受付:生理検査
- ⑰番受付:リハビリテーション科
- ⑳番受付:採血室

院内マップ



※ 外来化学療法室...地下1F

安心してご来院ください 新型コロナウイルス感染対策について

当院では、安心して受診していただける環境を提供するため、以下の感染対策を実施しています。

- 1 赤外線サーモグラフィーによる来院時検温の実施
- 2 非接触式手指消毒機の設置
- 3 ウイルス除去フィルター (医療用HEPAフィルター) 付き空気清浄機の設置
- 4 低濃度オゾン発生器の設置



※発熱のある患者さんは、一般受診の患者さんとの接触を避けるため、必要に応じて院外でウイルス検査を実施しています。

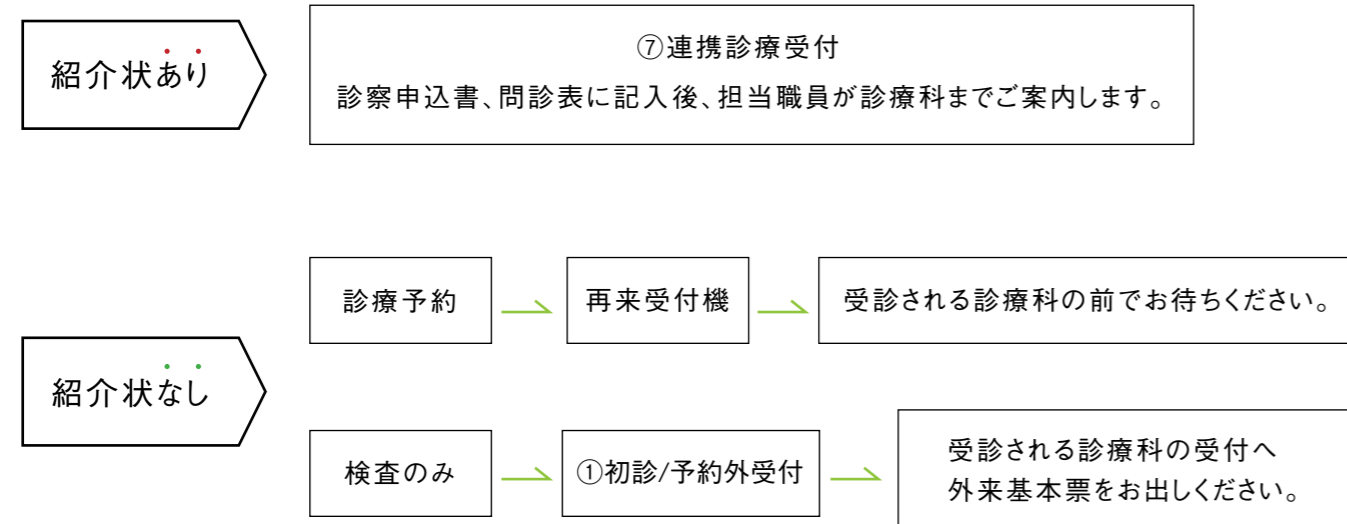
患者様へお願い

- 1.院内ではマスクの着用、ソーシャルディスタンスの確保にご協力をお願い致します。
- 2.発熱のある方は、必ずお電話でお問い合わせのうえ、ご来院いただきますようお願い致します。

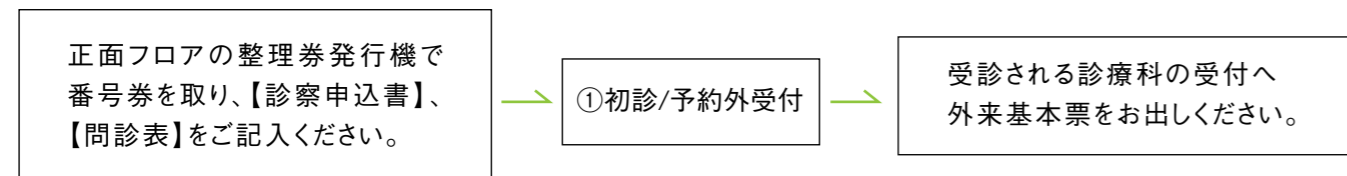
外来受診について

当院は原則、予約診療となっております。診療科によって当日受診できない場合もありますので、予めご了承くださいませようお願い致します。

予約されている方



予約のない方



当院では、初診時に他の医療機関からの紹介状をお持ちでない場合には、「初診時選定療養費」として5,500円(税込み)のご負担をお願いしています。

また、病状が安定し、他院へ紹介させていただいた方が再び当院を受診された場合には「再診時選定療養費」として2,750円(税込み)をご負担いただくことがあります。

※初診受付は、午前8時30分～午前11時30分までです。

(診療科によって異なる場合があります)

※診療担当医師につきましては、休診・代診等の場合もありますので、詳しくはお問い合わせください。

休診日：土曜日、日曜日、祝祭日、年末年始(12月29日～1月3日)

※休診日は救急診療のみとなります。病状によっては対応できない場合がございますので、事前に電話でお問い合わせの上ご来院ください。

地域医療支援病院について

当院は、「**地域医療支援病院**」です。

「地域医療支援病院」とは、地域の「かかりつけ医」から紹介のあった患者さまに対する医療の提供、地域の医療機関と医療機器の共同利用、地域の医療従事者に対するスキルアップ研修の実施など、地域医療の充実を図る病院のことです。当院は、平成29年11月、京都府知事から承認されました。

今後も引き続き、地域の皆さまに、より安心・安全な医療を提供できるよう努めていきたいと考えています。

連携診療について

かかりつけ医を
もちましょ

当院では、『かかりつけ医』との連携を密にし、それぞれの特徴を活かして診療にあたることで、地域の皆さまがより安心した暮らしができるようにと考えています。

かかりつけ医とは?

ご自身やご家族の日常的な診療や健康管理をしてくれる地元のお医者さんのことです。

『かかりつけ医をもつメリットは?』

1. 一人の医師に継続的にかかることで、ご自身の病歴や体質・生活習慣などをふまえた診療を受けることができます。
2. 当院受診の際に『かかりつけ医』から紹介いただくと、スムーズに検査や診療を受けて頂くことができます。
3. 入院や検査などが必要な場合、適切な病院・診療科を紹介してもらえます。

受診の際には『かかりつけ医』からの**紹介状をご持参ください**。

紹介状がない場合は、通常の診療費の他、初診時・再診時にかかる「選定療養費」が必要となります。

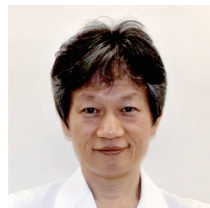
ご不明な点は、地域医療連携室まで

直通 0774-73-1818

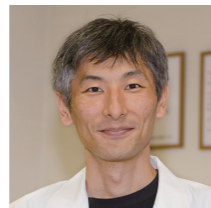
消化器内科

必要な検査治療を迅速・的確にできる、地域に密着した病院を目指しています。

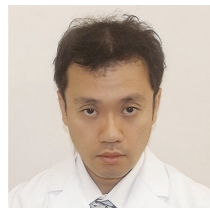
スタッフ紹介



副院長 兼
消化器内科部長
あらい まさひろ
新井 正弘
消化器病



消化器内科副部長
たなべ としろう
田辺 利朗
消化器病



消化器内科医長
かわばた としひろ
川端 利博
消化器病



消化器内科医長
かとう りゅうすけ
加藤 隆介
消化器病

対象とする患者の病気・症状

上部消化管	食道・胃癌、胃潰瘍など
下部消化管	大腸癌、潰瘍性大腸炎、クローン病など
肝臓	肝細胞癌、B・C型慢性肝炎など
胆膵	胆管・膵癌、総胆管結石など

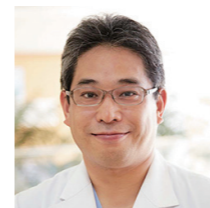
診療科の特徴

- 標準的検査治療を安全確実に実施しています。
- 最新の検査治療を積極的に取り入れています。
- チーム医療を心がけて日々研鑽に励んでいます。
- 病診連携に力を入れ、地域の医院・クリニックから直接消化器内視鏡検査を予約できるようにしています。
- 救急医療にも力を入れ、吐血や胆石発作等に対する緊急内視鏡検査を実施できる体制を整えています。



病診連携を重視、普段は原則かかりつけ医に、入院必要時には速やかに紹介していただく形式。高度な集中治療や救急医療に特化。症状のない心不全・治療抵抗性高血圧・慢性腎臓病などの教育入院を含め対応します。

スタッフ紹介



循環器内科部長
とみやす きいちろう
富安 貴一郎
心不全
カテーテル治療



循環器内科医員
もとやま しんいちろう
本山 晋一郎
カテーテル治療
循環器領域一般



循環器内科医員
やまなか りょうえつ
山中 亮悦
循環器領域一般

対象とする患者の病気・症状

冠動脈疾患	急性心筋梗塞・不安定狭心症・冠攣縮性狭心症など
心不全	急性心不全・虚血性心不全・心筋症・心筋炎・心臓弁膜症など
不整脈	心室細動・心室頻脈・心房細動・房室ブロック・洞不全症候群など
肺血管・末梢血管	肺高血圧・閉塞性動脈硬化症・足壊疽・腎動脈狭窄症など

診療科の特徴

急性期診療に特化

まず一番に、地域の皆様が急に生命の危機に陥った重大な時にこそ、我々がお役に立ちたいと考えています。約70年の当院の歴史の中で、新病院が完成した平成11年以降は、地域最大の循環器病の救急救命センターの役目を果たして参りました。これからもその役目をしっかりと果たすべく、より一層のスタッフや設備の充実を行って、最高の医療が提供できるように努力していく所存です。ただ、どうしても我々の医療資源にも限りがあります。そのため、地域の病院や医院などの医療機関と密に連携して、通院治療は地域の医療機関で、当センターでは主として入院治療を受け持つといった共同診療を提案しています。今後当院での外来診療部門は段階的に縮小していく予定ですので、当センター通院中の患者様におかれましても、病状が安定された方につきましては、かかりつけ医として近隣の医療機関で通院医療を受けて頂く事のご協力をお願いいたします。尚、かかりつけ医からのご連絡があれば、何時でも当院での医療を受けて頂く事を可能とします。

循環器疾患への専門性の高い治療

当センターでは従来の標準的な薬物治療に加え、下記の専門的で高度とされる医療を行います。

1. 心筋梗塞・狭心症といった冠動脈疾患に対する心臓カテーテル治療
2. 足壊疽を含めた閉塞性動脈硬化症・腎動脈狭窄症・肺動脈狭窄症に対するカテーテル治療
3. 不整脈疾患に対するカテーテル治療及びペースメーカー治療
4. 心不全に対する非薬物治療

もちろん、心臓バイパス・大動脈疾患や心臓弁膜症等の外科的手術、さらに再生医療や心臓移植を必要とする病態であれば、当センターでの医療だけでは完結しませんので、大学病院等のより高度な医療機関とも連携を図って、最善の治療法が円滑に実施できる様に努めています。

個別指導による包括的再発予防

我々は予防医学も重要視しています。心臓病の治療は多くの場合、過食や運動不足といった生活習慣の改善が必要です。当センターでは急性心筋梗塞で入院された方の生活習慣改善のために、循環器科医師・かかりつけ医・看護師・薬剤師・栄養士・理学療法士・ソーシャルワーカーらが合同カンファレンスを行い、それぞれの専門の立場から十分議論した上で個別に指導を行います。

後遺症のない社会復帰を目指す救命救急

来院時または院外での心肺停止症例に対しては、従来から当センターでは体外循環冷却装置を用いた確実な脳低温療法を実施する事により、後遺症なく社会復帰された症例を多数経験しています。

循環器内科

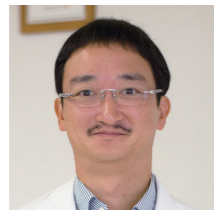
命に関わる循環器疾患に対してハイレベルな専門治療を行います。

腎臓内科

慢性腎臓病は国民病です！

腎臓病は、軽微な症状で始まり、知らないあいだに進行し、気が付けば透析を受けざるを得ない状態になっていることがよくあります。腎臓病は、膠原病・リウマチ疾患、糖尿病、メタボリックシンドロームなどによく合併し、増加傾向にあります。さらに慢性に進行する慢性腎臓病（CKD：chronic kidney disease）は心血管疾患（脳卒中や心筋梗塞など）を合併する頻度が高いことが知られています。

スタッフ紹介



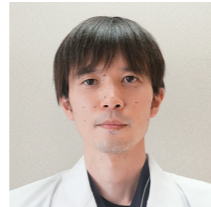
腎臓内科部長兼人工透析部長
なかたに きみひこ
中谷 公彦
腎臓内科・腎不全
膠原病・リウマチ



腎臓内科副部長
あさい おさむ
浅井 修
腎臓内科・腎不全



腎臓内科医員
さわい しんじ
澤井 慎二
腎臓内科・腎不全



腎臓内科医員
たなか ひさや
田中 寿弥
腎臓内科・腎不全

対象とする患者の病気・症状

検尿異常 (蛋白尿や血尿など)	腎臓病を発症している重要なサインの一つに、検尿異常(蛋白尿や血尿など)があります。検尿異常を指摘されましたら、放置せず、当科を受診してください。検尿異常の鑑別診断を行い、必要に応じて積極的に腎生検を実施して確定診断、適切な治療を行っていきます。
ネフローゼ症候群	原因(一次性腎炎や二次性腎炎など)の鑑別診断、腎生検などで確定診断を行い、適切な治療を選択・実施します。当科では副腎皮質ステロイドホルモンによる治療に加え、免疫抑制薬、さらにはLDL-アフェレシスなどの特殊治療など色々な選択肢の中から最良の治療を選択します。
腎機能低下	急激に腎機能が低下したのか(急性腎不全)、あるいは徐々に腎機能が低下したのか(慢性腎不全)を鑑別、その原因の精査を行い、適切な治療を行います。慢性腎不全の場合、その進行の抑制をめざして教育入院を行います。
腎代替療法	慢性腎不全に対する保存的治療の限界と判断された場合は、すみやかに腎代替療法への移行を考慮します。具体的には血液透析、腹膜透析、腎移植を選択していただきます(当院では腎移植を行うことができませんので、希望される方がおられれば、他施設へ紹介致します)。
透析合併症治療	様々な透析合併症に対し、合併症治療担当科と協力して診療に当たります。
電解質異常	ナトリウム、カリウムなどの電解質異常は早期の鑑別診断と治療が必要となります。特に、カルシウム異常は背景に何らかの疾患が存在することが多く、高カルシウム血症の場合は緊急の治療が必要です。

診療科の特徴

腎臓病の早期診断・治療

当院腎臓内科では、軽度の検尿異常や腎機能障害に対し積極的に腎生検を行い、早期に腎臓病的な診断をして治療を開始し、腎臓病の進行抑制・寛解導入を目指しております。

慢性腎臓病の検査教育入院

保存期の慢性腎不全の患者さんを対象に「慢性腎臓病検査教育入院」を行い、管理栄養士、薬剤師、検査技師、および看護師と共にチーム医療として慢性腎臓病およびその合併症の進行を阻止すべく腎臓病診療にあたらせていただいております。

腎代替療法の選択・導入

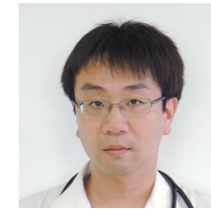
末期腎不全に陥った場合は、腎代替療法の選択・導入(腹膜透析・血液透析)とその後の管理を行います。当科では、血液透析を選択された場合は内シャント増設術や動脈表在化術などバスキュラーアクセスの作成を、腹膜透析を選択された場合は腹膜透析カテーテルの腹腔内留置術を行っております。また人工透析室では月から土まで25ベッドで血液透析を行っており、地域の基幹病院として、さらには高次機能をもつ総合医療センターとして各科の医師と連携して種々の血液浄化治療も行っております。

糖尿病性合併症の管理・治療及び「がん」の早期発見・早期治療に対応するため、内科・外科など各部門とグループ診療を行い、テーラーメイド治療を目指しています。

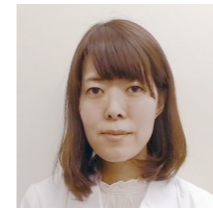
スタッフ紹介



特別参与
なかの こうじ
中埜 幸治
糖尿病・内分泌専門医



糖尿病・代謝内科副部長
つすみ たけし
堤 文士
糖尿病専門医
糖尿病・内分泌



糖尿病・代謝内科医員
かわい さやか
河合 清佳
糖尿病・内分泌



糖尿病・代謝内科医員
もとづか すぐる
本塚 卓
糖尿病・内分泌

(非常勤)
せきおか りさ
関岡 理沙
糖尿病・内分泌

対象とする患者の病気・症状

1型糖尿病	インスリン治療を必要とします。最近、激症1型糖尿病(1週間以内に発病。口渴・多飲・多尿などの症状がでる)も散見されます。
2型糖尿病	糖尿病の90%以上。家族歴のない方や20歳代の方も増えています。
糖尿病妊娠	妊娠前からの体重・血糖管理・合併症の評価が大切です。
妊娠糖尿病	妊娠したら糖尿病になっていないかを確認しましょう。
バセドウ病	眼球突出のない人でもイライラ、頻脈、発汗など。
橋本病	甲状腺が腫れていなくても、検査でわかります。妊婦・高齢者は一度検査を。下垂体性甲状腺機能低下症:妊婦さんなどで稀に認められます。検査でわかります。

診療科の特徴

糖尿病に関して、最近情報は過多で間違った食事や運動を開始している患者さんが初診時に判明することがあります。個々の患者さんの背景(年齢、性別、合併症の有無と程度・家庭環境)を適切に評価し、その人にあったテーラーメイド指導・治療を行っています。また、「元気に楽しく人生を過ごしてもらおう」ように取り組んでいます。



管理栄養士による栄養指導を行っています

元気に生きるために、日々の生活習慣を見直そう。

糖尿病・代謝内科

総合内科

内科疾患全般を幅広く診察しております。お困りのことがあればご相談ください。

診断・治療にあたっては各専門診療科とも連携し、またより高度な医療が必要であると判断した場合は高次病院への紹介を行います。病気だけでなく、人を診る医療を心がけていきますので、よろしくお願いいたします。

スタッフ紹介



内科医員
しみず わく
清水 和久
内科全般

対象とする患者の病気・症状

一般内科疾患	肺炎、尿路感染症、胃腸炎、蜂窩織炎などを診断し治療を行います
不明熱	通常の検査では原因のはっきりしない発熱患者さんを診察します
高齢者	誤嚥性肺炎などの疾患に加えて、脱水症・食欲不振・せん妄など頻繁にみられる症状に対応し、治療に当たります

診療科の特徴

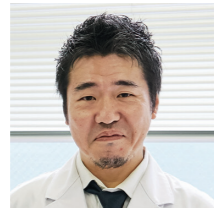
●総合内科は臓器にとらわれず全般的な診断・治療をおこないます。内科疾患全般が含まれますが、特に以下のようなときにご相談いただければ幸いです。

- ・病態が複雑で、診断に困る場合の鑑別診断
- ・発熱などの急性疾患の初期対応
- ・高齢で入退院を繰り返しており、体力が落ちて自宅での療養が困難となり退院調整を必要とする場合

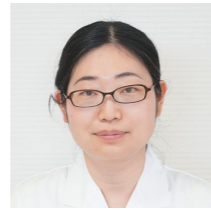
リウマチ科

わかりにくいと思われる関節リウマチ・膠原病疾患を患者さんにわかりやすく説明しながら、総合病院の利点を生かして最新の治療を提供しています。

スタッフ紹介



リウマチ科部長
むらかみ けん
村上 憲
膠原病・リウマチ性疾患



リウマチ科医員
はなたに もとこ
花谷 望都子
膠原病・リウマチ性疾患

対象とする患者の病気・症状

関節リウマチ・膠原病疾患

診療科の特徴

- 生物学的製剤を含めた最新の治療を患者さんとの相談を通じて安全に提供していきたいと考えています。
- 当院は日本リウマチ学会認定の教育施設です。学会認定リウマチ専門医が、総合病院としての利点を生かし、院内の各専門科と連携して最新の治療を提供しています。また、当院の通院患者さん、入院患者さんに対してだけでなく、京都南部のリウマチ膠原病疾患診療を支える中核病院として、(1)周辺の各医療機関と症例検討会、(2)地域の医療機関からの入院加療が必要な患者さんの受け入れ、(3)セカンドオピニオン希望の患者さんへの対応、などを通じて、地域全体の患者さんへの医療も提供しています。
- リウマチ膠原病疾患領域の対象疾患は、関節リウマチ、悪性関節リウマチ、全身性エリテマトーデス(SLE)、抗リン脂質抗体症候群、シェーグレン症候群、強皮症、皮膚筋炎・多発性筋炎、成人発症ステイル病、血管炎症候群、リウマチ性多発筋痛症、側頭動脈炎、乾癬性関節炎、混合性結合組織病、家族性地中海熱、強直性脊椎炎、掌蹠膿疱症性関節炎、パーチュット病、好酸球性多発血管炎性肉芽腫症、多発血管炎性肉芽腫症、再発性多発軟骨炎などです。これら以外にも、不明熱に対する診療も行っております。



関節エコー検査



点滴の生物学的製剤投与を受けていただく外来化学療法室です

小児科

京都府南部の中核病院小児科として、近隣機関と連携し、赤ちゃんから思春期への成長発達を見守る拠り所を目指します。

小児科医は『こどもの総合医』です。何でもご相談ください。

スタッフ紹介



小児科主任部長

ないとう たけし
内藤 岳史

小児科全般
神経・発達



小児科部長

かのう げん
加納 原

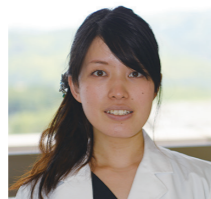
小児科全般・血液
免疫・予防接種



小児科副部長

いずみ もりあつ
和泉 守篤

小児科全般・新生児
アレルギー・漢方



小児科医員

まさき あやか
正木 綾香

小児科全般・腎疾患
予防接種



小児科医員

よこた ゆき
横田 侑紀

小児科一般

(非常勤)

たけした なおき
竹下 直樹

小児循環器

(非常勤)

やまぐち みほこ
山口 美穂子

小児内分泌・代謝

(非常勤)

もりもと ひでちか
森元 英周

小児内分泌・代謝

(非常勤)

にしだ あきひろ
西田 明弘

腎・慢性疾患

対象とする患者の病気・症状

感染症	ウイルス性・細菌性肺炎・急性胃腸炎、髄膜炎・脳炎など
神経・発達	てんかん・発作性疾患、頭痛、先天異常、発達遅滞、重症心身障害など
血液・免疫	貧血、血液悪性疾患、免疫不全、リウマチ・膠原病など
アレルギー	食物アレルギー、ぜんそくなど
心臓	先天性心疾患、川崎病、不整脈など
腎臓	ネフローゼ、慢性腎炎、尿路感染症、腎尿路奇形など
新生児	早産児（在胎34週・1500g以上）、呼吸障害、黄疸、感染症など
内分泌・代謝	成長ホルモン分泌不全性低身長、甲状腺疾患、先天代謝異常、糖尿病、肥満など
心身症	過敏性腸症候群、起立性調節障害、頭痛など

診療科の特徴

外来診療

午前的一般外来では、十分な感染対策のもと、発熱・咳嗽・下痢などを主訴とする急性感染症の診療にあたるほか、種々の慢性疾患に対するの初期診療も行っています。木津川市在住の方については、乳児個別健診(月・金)を当院で受けて頂くことも可能です。

午後の専門外来(予約制)では、血液・免疫(月)/腎疾患・循環器(火)/神経・発達(水)/内分泌代謝(金)・アレルギー(木・金)、と幅広い領域をカバーしています。また、基礎疾患を有する小児に対する専門的予防接種(月・火)、公認心理士と連携した心身症の診察・カウンセリング(月)も行っています。近隣医療機関からの精査・入院依頼についても積極的に対応しております。

救急診療

日曜・祝日(終日)および木曜(夜間)は、山城南医療圏の輪番担当として、小児科医が救急対応しています。その他の平日夜間についても、近隣診療所から入院が必要なお子さまの紹介があれば受け入れています。

入院診療

外来・救急・紹介患者さま、また院内出生のうち早産の赤ちゃんなどを含め、年間入院件数は500～600件です。遠方の専門医療機関で治療されたお子さまの回復期の転院先としても対応しています。また、食物アレルギー負荷試験や、成長ホルモン分泌刺激試験、鎮静剤使用下でのMRI撮像、検査目的の日帰り・短期入院も行っています。

泌尿器科

京都の南部地域で頼られる泌尿器科を目指して日夜励んでいます。

京都の南部地域で頼られる泌尿器科を目指して日夜励んでいます。

また大学病院との連携にも力を入れており、京都府立医科大学はもとより、多くの先進医療を行っている病院との連携を大切に、患者さんの利益を最優先にした医療を提供しています。

スタッフ紹介



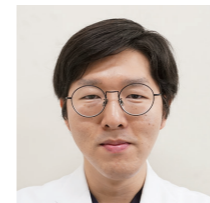
泌尿器科部長

まつばら ひろき
松原 弘樹



泌尿器科医員

はりかい しゅんじ
針貝 俊治



泌尿器科医員

いのうえ かい
井上 魁

対象とする患者の病気・症状

前立腺癌	早期発見には50歳を過ぎた男性は、毎年のPSA検診が重要です
膀胱癌	肉眼的血尿は膀胱癌の症状です
尿路結石症	七転八倒の痛みがあります
前立腺肥大症	夜間三回以上起きて、排尿に時間がかかります
尿路感染症	尿混濁、発熱、排尿時痛が症状です
過活動膀胱	膀胱の機能障害で、尿失禁、頻尿が見られます

診療科の特徴

泌尿器科は主に泌尿器外科を行い、内科的腎疾患は当院の腎臓内科に任せています。扱う臓器は、腎・尿管・膀胱・尿道といった尿路臓器、精巣・前立腺などの男性性器、副腎などの内分泌臓器があります。疾患としては、癌・結石・炎症疾患などがあげられますが、その中でも症例が多いのは癌と結石です。癌に関しては開腹手術による腎摘除術、膀胱全摘除術、前立腺全摘除術はもとより、低侵襲治療として膀胱癌に対する内視鏡手術や抗がん剤治療、動注化学療法、さらに腎癌や腎盂尿管癌に対する腹腔鏡手術も行っております。また、前立腺癌に対する内分泌療法や抗癌剤治療も行っています。

結石に対する治療も、平成30年5月に新機種に変更した体外衝撃波結石破碎術だけでなく、経尿道的尿路結石摘除術(TUL, f-TUL)も行っており、さらに前立腺肥大症や排尿機能障害に対する内服治療や内視鏡治療のように、低侵襲治療も患者様と相談しながら積極的に行っております。

脳神経内科

住民の脳神経内科領域の問題に全力で対応します。

脳神経内科が担当する疾患は、脳血管障害や認知症など多岐にわたります。疾患の中には治療が難しく、また、身体の不自由が生じたり、日常生活における困難が大きく長く続くものがあります。ご本人やご家族の状態をできるだけ正確に把握して、診断・治療・ケアが最適なものとなるよう努力します。できるだけ住み慣れた地域で過ごしていただけるよう、この地域の医療・介護に携わる多職種との連携を心がけます。

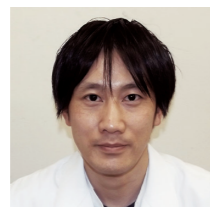
スタッフ紹介



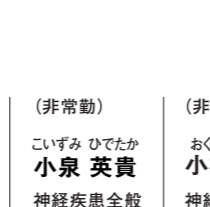
院長
いわもと かずひろ
岩本 一秀
神経疾患全般・認知症



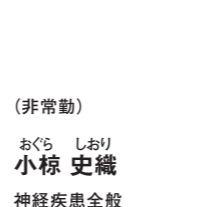
脳神経内科部長
おおしま よういち
大島 洋一
神経疾患全般・認知症



脳神経内科医長
むかい まお
向井 麻央
神経疾患全般



(非常勤)
こいずみ ひでたか
小泉 英貴
神経疾患全般



(非常勤)
おくら しおり
小椋 史織
神経疾患全般

対象となる病気・症状

脳血管障害	脳卒中といわれる一群の疾患で、手足の麻痺や呂律が回らないといった症状が突然出現します。可能な限り速やかに受診されることをお勧めします。脳梗塞の一部では、条件が整えば血栓溶解療法が行えることがあります。また、早期に治療およびリハビリテーションを開始することにより、後遺障害をできるだけ軽減できればと考えています。
パーキンソン病	動作が遅くなる、手足が震えるといった症状が徐々に悪化する脳の疾患
認知症	脳の機能低下により記憶力をはじめとした高度な脳機能が低下し、社会生活や日常生活が不自由になるアルツハイマー型認知症を代表とする一群の疾患
頭痛	片頭痛、群発頭痛、緊張型頭痛、薬物乱用頭痛などがあり、診断を的確に行うことにより、有効な治療が行えます。
てんかん	突然意識を失ったり、手足に痙攣が生じたりといった症状が繰り返し起こります。多くの場合、適切に診断することにより、有効な治療が行えます。

診療科の特徴

脳神経内科が担当する疾患には、原因がわかっても治療困難なものがあります。しかし、病歴聴取や診察、検査を行うことにより、治療可能な疾患であることが判明したり、対症療法ながら症状や日常生活上の困難を軽減できることがあります。

病歴にて得られる情報はできるだけ多く正確であればあるだけ、正しい診断に近づきやすいです。他の医療機関にて最近受けられた検査結果がお手元にありますら、受診時ご持参いただけましたら大変助かります。診察には長い時間を要するため、外来での待ち時間が長くなることも多く、ご迷惑をおかけしますが、診療科の特性とご了解いただけましたら幸いです。

不安なこと、聞きたいことがありましたら、納得いくまで説明いたします。

スタッフ紹介



呼吸器外科部長
いとう かずひろ
伊藤 和弘
日本呼吸器外科学会専門医

(非常勤)
いしはら しゅんた
石原 駿太

対象とする患者の病気・症状

肺癌	肺癌の手術治療、手術後の補助化学療法
転移性肺腫瘍	大腸癌・直腸癌、腎癌などの肺転移に対する手術治療
気胸	自然気胸に対する手術治療
縦郭腫瘍	胸腺腫、胸腺癌、神経鞘腫、奇形腫などの手術治療

診療科の特徴

当院での呼吸器外科手術の特徴は、微小な肺腫瘍に対する術前マーキングを併用した胸腔鏡手術です。近年、胸部 CT の普及により、胸部レントゲンでは指摘できないような小さな影が見つかるようになりました。小さい陰影は、従来の検査法(気管支鏡、針生検など)では確定診断を得られないことが多いです。しかしながら、悪性を疑う陰影を経過観察し、大きくなってから手術していたのでは、小さく見つかったメリットがありません。小さく見つけて小さく手術することで、早期に肺癌を治療できると考えています。

手術前に CT で確認しながら、細い針を刺して目的の陰影の近くまで進めます。微量の造影剤を注入してマーキングとします。手術中に、レントゲンを利用してマーキングを確認し、微小腫瘍を含むようにして切除します。肺癌・転移性肺腫瘍・気胸などの呼吸器外科の手術は、ほぼ全症例で内視鏡手術を行っています。2cm 程度の小さな傷を2カ所、わきの下に 4~8cm 程度の傷を1カ所の合計3カ所の傷で手術を行っています。

気胸の手術では、さらに低侵襲な1カ所の創で行う手術をはじめています。手術後の痛みはさらに軽減しています。



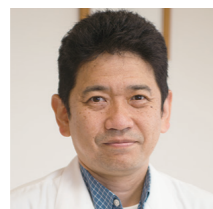
肺癌、転移性肺腫瘍、気胸などの呼吸器領域の外科治療を行っています。的確な術前診断を行い、低侵襲で安全かつ確実な手術を行います。

呼吸器外科

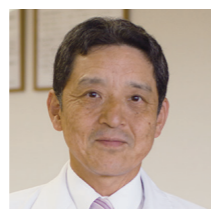
消化器外科

消化器外科では特に消化器癌の治療を中心にっております。

スタッフ紹介



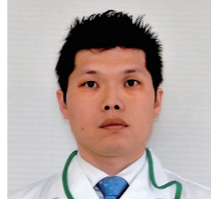
副院長
いとかわ よしき
糸川 嘉樹
日本外科学会専門医



消化器外科部長
なかた まさし
中田 雅支
日本消化器外科学会指導医



がん診療部長兼
化学療法部長
こいけ ひろし
小池 浩志
日本消化器外科学会認定医



消化器外科副部長
かしもと きんご
柏本 錦吾
日本消化器外科学会専門医

対象とする患者の病気・症状

消化器疾患	胃癌、大腸癌、肝癌、胆道癌、膵癌、鼠径ヘルニア、胆石症、急性虫垂炎など
-------	-------------------------------------

診療科の特徴

当院は地域がん診療病院に指定されており、地域がん診療の拠点としての体制を整えております。消化器領域の癌治療に関しても消化器内科、放射線科と連携し、その時点で最適かつ標準的な外科的癌治療を行っております。また、術前や術後の補助化学療法を含めて治療を一元的に行っています。

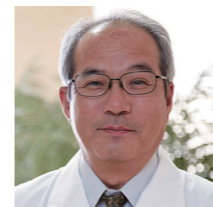
それぞれの消化器癌に対して、基本的には学会の指針やガイドラインに基づいた治療法を選択します。しかし、症例によっては患者さまの状態や要望にそった形のオーダーメイド治療にも可能な範囲で対応いたします。

昨今、外科手術の領域では整容性と術後の回復の早さから、腹腔鏡手術が急速に広がっています。当科も例にもれず、知識と技術の研鑽をすすめ積極的に腹腔鏡手術を取り入れており、胃癌、大腸癌、鼠径ヘルニア等の手術は症例を選んで腹腔鏡で手術しています。緩和ケア治療に関しても多職種と連携した医療チームと協力して行っています。



心地よく受診していただけるよう、「明るい診察室」を心がけております。

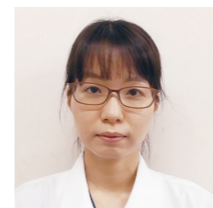
スタッフ紹介



特別参与
なかい いちろう
中井 一郎
乳腺外科・内分泌外科



乳腺外科部長
まつだ たかゆき
松田 高幸
乳腺外科



乳腺外科医員
すどう もえ
須藤 萌
乳腺外科・内分泌外科

対象とする患者の病気・症状

乳腺疾患	乳癌、その他の乳腺疾患
甲状腺疾患	甲状腺腫瘍、慢性甲状腺炎など
副甲状腺疾患	副甲状腺腫瘍、過形成など
副腎疾患	褐色細胞腫など

診療科の特徴

- 乳腺の診療では、日本乳癌学会の標準治療ガイドライン(科学的根拠に基づいた現時点での最善の治療)の実践を目指します。当院での乳房温存手術は全体の約60%です。
- 内分泌の診療では、やはり甲状腺腫瘍が多いのですが、機能的疾患(バセドウ病や慢性甲状腺炎など)も診療しております。
- 予約が満杯の場合、休診(学会出張等)でないことをご確認のうえ、午前11時半までにお越しください。可能な限り診療させていただきます。
- 女性医師・女性技師による診療を選択していただけます。

確かな診断・適切な治療を目指しています。

乳腺・内分泌外科

小児外科

常に親御さんの目線にたつて、同じ情報を医療スタッフも含め共有し一丸となって子供の治療に携わっていくよう心がけています。

小児外科は主に0～15才までのお子さんの手術が必要な病気の治療を行う診療科です。当院では小児科・外科・産婦人科・泌尿器科の先生と連携を取りながら治療にあたっています。手術後も小児外科特有の疾患で、機能改善のフォローなど必要であれば小児期を過ぎても引き続き小児外科で治療及び管理を行なっています。

スタッフ紹介



小児外科部長
むらかみ しづ
村上 紫津
小児外科専門医

対象とする患者の主な病気・症状

鼠径ヘルニア 陰嚢水腫	子供の手術で一番多い、足の付け根から陰部陰唇や(陰嚢)にかけてふくらみを認めます。多くはお腹の中から腸管が飛び出ているため「脱腸」とも呼ばれます。男児で内部に水分のみが貯留する場合を陰嚢水腫といいます。
虫垂炎	お腹の右下にある大腸(盲腸)の先に付いている虫垂と呼ばれる部分の炎症で、一般的には手術を行います。抗菌剤の投与による保存的治療をまず行い、数ヶ月経ってから手術を行うこともあります。
停留精巣	陰嚢内に精巣睾丸を認めず、足のつけ根やお腹の中に精巣を認める疾患です。将来不妊や悪性化の危険性があるため、1歳頃には手術で陰嚢に固定する必要があります。
(さい)臍ヘルニア	生後へその緒が取れた後にへそがとびだしてくる状態でいわゆる「でべそ」です。1歳までに8割、2歳までに9割が自然治癒します。2歳以降でもとびだしている場合は手術となります。

診療科の特徴

「こどもはおとなのミニチュアではない」と、小児外科を説明するときに使われる言葉です。こどもはおとなに比べて体が小さく、その体はおとなのように完成したものではありません。あらゆる臓器が発育の途中にあり機能も未熟です。しかも、発育に伴ってこれらの機能はどんどん変化してゆきます。このようなこどもの体の特徴を十分に把握し、こどもについての専門的な知識を持った外科医が、小児外科医です。

当院では上に書いたような病気の手術を中心に、外来では、便秘症などの直接手術は行わない、病気の管理も行なっております。また、稀な疾患や、より高度な検査や治療が必要な病気は京都府立医科大学小児外科学教室と連携をとって対応いたします。

スタッフ紹介



整形外科部長 兼
リハビリテーション科部長
みずの けんたろう
水野 健太郎
日本整形外科学会専門医
脊椎・脊髄

(非常勤)
やまざき たかひと
山崎 隆仁

(非常勤)
しみず ゆういち
清水 佑一



整形外科医員
いらい ひろゆき
岩井 宏之
日本整形外科学会専門医

対象とする患者の病気・症状

骨折	保存的治療から観血的治療まで
変形性膝関節症	歩行時の膝の痛み
腰部脊柱管狭窄症	腰・下肢痛、歩行障害
骨粗鬆症	脊椎圧迫骨折 など
肩関節周囲炎	肩関節の痛みと運動制限

診療科の特徴

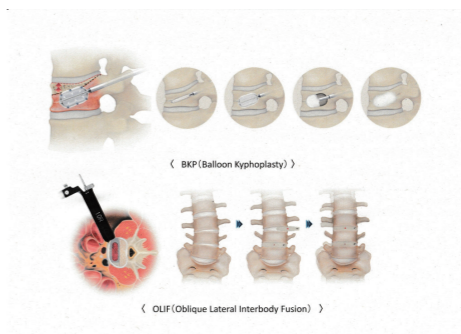
整形外科では骨、関節、筋肉、神経など運動器と呼ばれる臓器を対象としています。具体的には、四肢や脊椎の外傷や慢性的な痛みや変形、機能障害などを診療しています。手術は高齢者の大腿骨近位部骨折、脊椎手術、人工関節手術、交通・労災事故による四肢骨折の件数が増加しています。術後はスムーズにリハビリテーションに移行出来るよう、術前よりリハビリを開始し、カンファレンスを通してリハビリスタッフや看護師と問題点を検討し、チームとして機能障害の改善を目標に努力しています。



〈開腹鏡下手術〉



〈脊椎ナビゲーションシステム〉



〈 BKP(Balloon Kyphoplasty) 〉

〈 OLIF (Oblique Lateral Interbody Fusion) 〉

整形外科として広く認められる標準的な治療を心がけています。手術的治療および保存療法について患者様の意思を尊重し決定します。

整形外科

脳神経外科

脳神経内科との連携、最新の技術を駆使した手術などにより、当医療圏唯一の脳神経外科として質の高い医療を提供することを目指しています。

スタッフ紹介



脳神経外科部長

いわた よしひろ
岩本 芳浩

日本脳神経外科学会専門医

(非常勤)

ごとう ゆうだい
後藤 雄大

(非常勤)

まるやま だいすけ
丸山 大輔

(非常勤)

たにがわ せいすけ
谷川 成佑

対象とする患者の病気・症状

脳腫瘍	神経膠腫、髄膜腫、聴神経鞘腫、悪性リンパ腫など
脳血管障害	クモ膜下出血、脳動脈瘤、脳出血、脳梗塞、頸動脈狭窄症など
頭部外傷	硬膜外血腫、硬膜下血腫、脳挫傷、頭蓋骨骨折など
機能的疾患	正常圧水頭症、三叉神経痛、顔面けいれんなど
感染症	脳膿瘍、硬膜下膿瘍など

診療科の特徴

- 現在は常勤の脳神経外科専門医が1名となり、緊急手術は行えませんが、医療安全上問題のない範囲で外来及び入院診療を行っています。
- 治療については患者さん・ご家族に十分説明及び相談させていただいた上で決定しています。



最先端の画像診断装置を用いて、最高の画像を提供します。からだに負担がかからない、優しい検査を心がけています。

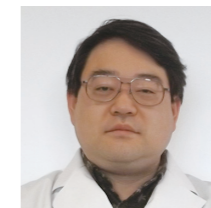
スタッフ紹介



副院長兼
放射線科部長

いしはら きよし
石原 潔

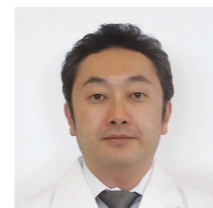
画像診断



放射線科副部長

いとう たかあき
伊藤 誠明

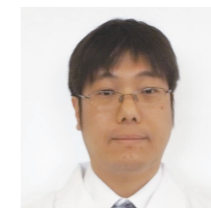
IVR 画像診断



放射線科医長

あいた かずやす
会田 和泰

IVR 画像診断



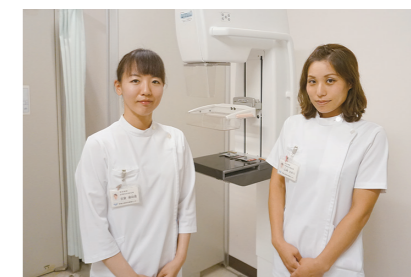
放射線科医員

やすいけ まさし
安池 政志

画像診断

診療科の特徴

- 4名の常勤医(全員が専門医)による質の高い診断と治療を行っています。
- マルチスライスCTを用いて、3次元画像を作成することにより、精密な診断を行っています。心臓CTに関しては、全国的にみても豊富な経験と症例数を有しています。
- 1.5 テスラ MRI は、全身の精密な検査が可能です。撮影時の機械音が静かで、快適に検査が受けられます。
- 地域の医療機関からの紹介で、CTやMRIなどの検査を行っています。
- IVRの分野では、他科に入院中の患者さんの癌に対する動注治療、透析シャントの閉塞に対する治療、膿瘍ドレナージ、CTガイド下生検などを行っています。



治療方針の決定に結びつく、質の高い画像診断を心がけます。

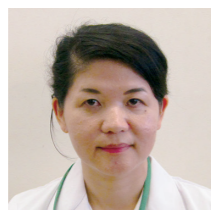
放射線科

産婦人科

地域に根付いた産婦人科施設として女性のQOLを高める医療を実践します。健康管理・増進を目指して気軽に受診していただきたいと考えています。

気になる自覚症状があれば、受診をためらうことなく一度お越しください。

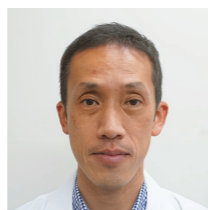
スタッフ紹介



産婦人科部長

きたおか ゆい
北岡 由衣

周産期・内視鏡手術
女性ヘルスケア



産婦人科副部長

たかし ようへい
貴志 洋平

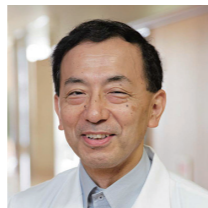
周産期・内視鏡手術
子宮内膜症



産婦人科医員

きたむら よしひろ
北村 圭広

産婦人科一般



産婦人科医員

さわだ しげなり
澤田 重成

周産期・腫瘍全般
膣式手術

対象とする患者の病気・症状

正常妊娠(分娩)	定期妊婦健診、里帰り分娩、胎児先天性心エコースクリーニング
異常妊娠(分娩)	双胎妊娠、切迫流・早産、妊娠高血圧症候群、他合併症妊娠
良性腫瘍	子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣のう腫、骨盤臓器脱(子宮脱など)
悪性腫瘍	婦人科悪性腫瘍の診断・手術・フォローアップ
内分泌異常	月経異常、更年期障害、不妊相談、女性ヘルスケアなど
婦人科感染症	骨盤内感染、性感染症診断、治療、膣外陰炎
その他	子宮がん検診(二次検診)、HPVワクチン

診療科の特徴

- 妊娠中から分娩、産後まで医師、助産師、看護師の共同管理により安全で安心感のある良質な医療の提供を心がけています。自然分娩を基本としていますが、帝王切開術での分娩時にも小児科医、麻酔科医との連携を取りながら十分な管理体制を維持しています。
- 婦人科疾患については薬物療法、手術療法などその方にとって最適な治療法を選択するように心がけています。手術に関しても内視鏡手術(腹腔鏡・子宮鏡)、開腹手術、膣式手術を検討し、より低侵襲な手術を取り入れています。手術や各種治療の標準的な治療計画であるクリニカルパスを活用しスムーズな入院管理と均一な医療の提供、早期完治を目指しています。
- 病気を未然に防ぎ、女性の健康増進を目指したいという思いから、婦人科がん検診も積極的にを行い、思春期から更年期以降の女性のヘルスケア、QOL向上の窓口となるよう力を注いでいきます。

身近な眼科疾患に対し、最善の治療が行えるように目指します。

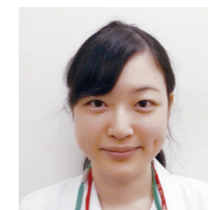
スタッフ紹介



眼科部長

そのむら ゆきこ
茵村 有紀子

眼科一般・ドライアイ



眼科医員

ちもり えいこ
千森 瑛子

眼科一般

(非常勤)
ひろたに ゆみ
廣谷 有美

対象とする患者の病気・症状

眼瞼疾患	霰粒腫、眼瞼下垂、内反症など
前眼部疾患	結膜炎、角膜炎、翼状片、ドライアイなど
水晶体疾患	白内障
網膜硝子体疾患	糖尿病網膜症、網膜静脈閉塞症、網膜裂孔など
緑内障	原発緑内障、続発緑内障など
小児眼科疾患	斜視、弱視

診療科の特徴

一般的な眼科疾患の診断、治療を行っています。白内障手術を中心に眼瞼疾患や翼状片などの手術も行っています。白内障手術は新しい手術機器を用い、入院、日帰りの両方で行っており、希望や全身状態により選択しています。当科の設備が不十分な疾患の場合は大学病院などと連携し治療を行っています。

- 医療設備
レーザー光凝固装置、光干渉断層計、眼底カメラ、ゴールドマン視野計、オクトパス視野計、YAGレーザー、角膜内皮測定装置、非接触眼圧計、屈折測定装置、超音波眼軸測定器、網膜電図、大型弱視鏡
- 散瞳検査について
網膜など眼の中をよくみるためには、瞳を開く点眼を行い、その後に検査を行う場合があります。検査までに点眼が効くまで時間がかかり、検査のあとも5～6時間はぼやけてまぶしくなります。その間、車やバイクを自分で運転することはできませんので、この検査を行う場合は公共交通機関を利用していただくか、付添いの方と一緒に受診していただく必要があります。



私たちは、白内障や緑内障などの一般的な眼科疾患を確実に診断し、安全に治療を行うことを目指しています。

眼科

皮膚科

子供から大人までのあらゆる皮膚疾患に対応いたします。

子供から大人までのあらゆる皮膚疾患に対応し、皮膚症状だけでなく毛、爪、口唇、陰部など身体の表面にあらわれる疾患の診察をしています。

スタッフ紹介



皮膚科部長

はなだ けいじ
花田 圭司

日本皮膚科学会専門医
日本褥瘡学会認定師

(非常勤)

ふるや よしみ
古谷 佳美

対象とする患者の病気・症状

感染症	蜂窩織炎、丹毒、伝染性膿痂疹(とびひ)などの細菌感染症 単純疱疹、帯状疱疹(ヘルペス)、水痘(みずぼうそう)、尋常性疣贅(イボ)などのウィルス感染症 足爪白癬(みずむし)、カンジダ症などの真菌感染症
アレルギー炎症性疾患	じんま疹、アトピー性皮膚炎、接触皮膚炎(かぶれ)、尋常性乾癬、蕁麻疹など
水疱症	尋常性天疱瘡、水疱性類天疱瘡など
皮膚腫瘍	色素性母斑(ほくろ)、粉瘤、脂肪腫、日光角化症、ボーエン病、基底細胞癌など
皮膚潰瘍	熱傷(やけど)、褥瘡(とこずれ)など
その他	多汗症、陥入爪、円形脱毛症、男性型脱毛症など

診療科の特徴

皮膚疾患に対して最善の治療を行うためには、早期に適切な診断をすることが重要であり、当院では様々な検査を行います(詳細な問診、パッチテスト、プリックテスト、血液検査、ダーモスコピー、皮膚生検、画像検査(超音波検査、CT、MRI)など)。診断がついても治療方法は一つとは限りませんので、できるだけ患者さんの希望に添った治療をおこなうことを心掛けていきます。また、迅速な対応が必要な疾患(感染症、熱傷など)に対しては手術や入院治療をおこない、他の診療科とも連携しながらよりよい医療を提供していく所存です。

対象とする患者の病気・症状

耳疾患	耳通、耳だれ、腫れ、耳詰まり、難聴、めまい など
鼻疾患	鼻水、鼻づまり、鼻血、鼻痛、くしゃみ、嗅覚障害
口腔疾患	疼痛、よだれ、味覚障害 など
咽喉頭疾患	嚥下障害、知覚障害、音声障害(嚙れ声)、夜間呼吸障害
気管・食道	咳、痰

診療科の特徴

現在は週に3回、非常勤医師にて外来を担当しております。耳・鼻・のどを中心に首や顔の病気や声枯れなど耳鼻咽喉科領域を幅広く対応しています。現在は非常勤体制ですので入院や手術加療は原則的に行っておりませんが、通院での点滴加療など可能な範囲で対応をしています。また、急性期疾患に関しては近隣の耳鼻咽喉科対応の医療機関と連携し早急に対応するようにしています。耳が聞こえにくい、においがしにくい、声が出にくい、のどが痛いなど早急に受診をいただく事が早期での改善につながる事が多いです。特に耳鼻咽喉科には早急に治療を要する病気が多いので、受診していただければと思います。患者さんご本人、ご家族に対してわかりやすく丁寧な診療を心がけて取り組んでいます。

対象とする患者の病気・症状

脳血管疾患	脳出血、脳梗塞、脳腫瘍、頭部外傷、パーキンソン病 など
運動器疾患	骨折、脱臼、腱・靭帯損傷、人工関節術後、関節リウマチなど
呼吸器疾患	肺炎、呼吸不全、肺炎、外科術前・術後の呼吸合併症予防など
循環器疾患	心筋梗塞、心不全など
がん	乳癌、肺癌、胃癌、大腸癌など

診療科の特徴

各診療科より入院早期から患者さんの病態にあわせたリハビリテーションを実施します。社会復帰や機能に応じて発症前に近いADLの獲得を目指し患者さんのQOLの維持・向上に取り組んでいます。

京都府より山城南圏域地域リハビリテーション支援センターに指定され、リハビリ相談事業、ステップアップ研修、圏域内の地域ケア会議への出席などを通して、リハビリ従事者・介護サービス関係者・行政関係者の方々に知識・技術・情報提供などを行っています。



耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科というと耳・鼻の病気というイメージが強いかもしれませんが、首やのどについても診療しておりますので、ご相談ください。

リハビリテーション科

理学療法部門・作業療法部門・言語聴覚療法部門の各スタッフが早期から良質な訓練プログラムを提供し、患者さんのQOLの維持・向上を目指します。

麻酔科

手術は人生最大の外傷だと言われています。この手術侵襲による体への影響を最小限に抑えることが我々麻酔科の仕事です。

手術侵襲から患者さんを守るため、手術室スタッフとともに厳密な管理をしています。

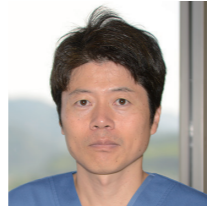
スタッフ紹介



麻酔科部長

まつもと やすのり
松本 裕則

麻酔一般・疼痛管理
集中治療



麻酔科副部長

すぎ たかし
杉 崇史

麻酔一般・疼痛管理
集中治療



麻酔科副部長

ひらやま たかひろ
平山 敬浩

麻酔一般・集中治療

診療科の特徴

- 京都府南部の公的中核病院として要求される麻酔管理を日本麻酔科学会認定専門医が行います。
- 手術を受けられる患者さん一人ひとりに対して、正確な術前リスク評価を行い、手術前の患者さんの状態を十分に把握し、患者さんにとって最良の麻酔方法を選択し、患者さんが安全に手術を受けていただけるように、厳密な麻酔管理の施行に努めております。



地域包括ケア病棟とは

急性期治療後や、自宅療養中の患者さんを対象に、在宅復帰支援をおこなう病棟です。下記の2つの役割があります。

1 急性期病棟からの受け入れ(ポストアキュート)

急性期の治療終了後、経過観察が必要な方、リハビリが必要な方、在宅復帰支援が必要な方に利用いただきます。また、他病院入院中の患者さんを受け入れ、在宅復帰のお手伝いをしています。

2 在宅からの受け入れ(サブアキュート)

自宅療養中の患者さんで、痰の吸引などの医療処置のため介護施設でのショートステイの利用が困難な方や、軽度の肺炎や尿路感染症などで一時入院が必要な方を受け入れてしています。

地域からの受け入れを強化しています。

地域包括ケア病棟を利用される患者さんの約43%が地域から直接入院される患者さんです。在宅復帰に向けた支援はもちろん、介護老人保健施設やましろとも連携し、地域で患者さんをささえる体制を整えています。

地域包括ケア病棟「彩り」の取り組みについて

身体機能の維持向上のため、集団でリハビリ体操(平日毎日)や、玉入れなどのレクリエーション(月1回)を実施しています。

新型コロナウイルス感染対策のため、参加される方には全員同じ方向を向いていただき、ソーシャルディスタンスの確保に配慮しております。

※緊急事態宣言など状況に応じて中止させていただくことがあります。



デイルームにはパーテーションを設置し、感染予防に努めています。



集団リハビリ

地域包括ケア病棟に関するお問い合わせは、地域医療連携室まで

直通 0774-73-1818

患者さん個々の生活に合わせた手助けをし、彩り豊かな病棟を目指します。

地域包括ケア病棟『彩り(いろいろどり)』